

# おんまのまかん 新聞



岐阜県議会第129代  
副議長に就任いたしました

県議会議員になって14年、人口減少に直面し今後さらに進む少子高齢化社会を踏まえて、「人口減少に負けない岐阜県を創る！」という想いで、各種施策に取り組んできました。昨年からは、新型コロナウイルスへの対応が最重要課題であり、「コロナに打ち克つ」ために、感染対策を中心としたウイズコロナ、そして社会経済活動の早期回復を目指すアフターコロナの両面から県政に働き掛けています。

議員活動は、多くの方々の支援なくしては継続できません。4度の選挙を乗り越えて、副議長という重責をいただけることに感謝すると共に、14年の議員活動で培った「経験と人脈」を最大限に活かしながら、「皆さんのお役に立てる県議会議員」として頑張ります。

## 県議会議員としての想いと取り組み

### 01 シニアが主役、子供は宝 人生百歳時代に対応

私は「シニアが主役、子供は宝」というスローガンを掲げています。その一環として、健康維持増進を目指して、スポーツやレクリエーションの普及に取り組んでいます。県議会の一般質問で「スポーツ振興条例」を提案したことで、幼児からシニア世代を対象にする議員提案として条例が成立しました。国体開催以降はバドミントン協会役員として競技力向上に取り組むとともに、レクリエーション普及や「ねんりん運動」を積極的に推進しています。

### 02 地域の絆づくり「自助、共助、公助」

少子化高齢化時代到来により、「地域の絆」が一層重要になってくると考えています。「自助、共助、公助」という考えをもとに、地域の絆を構築するために、県と市町村が連携しながら「地域の絆づくり」を推進することが重要であると考えています。防災についても、震災のボランティアの際に「遠くの親戚より、隣人との関係が大切」という声を多く聞き、相互扶助ができる地域づくりが大切だと実感し想いを強くしました。

### 03 福祉とは、幸せであること 最重要課題

私は「福祉とは、幸せであること」という考えに基づいて、現場の声を大切にしながら取り組んでいます。未病予防の観点での検査や検診体制の推進、障がい者就労支援、放課後児童クラブなどの子育て支援、他にも多くの具体的な提案をして、様々な取り組みに結び付けることができました。「福祉を支えるためには、強い経済そして税収を増やすことが不可欠である」という考え方も私の持論であり、県内の中小企業や小規模企業の支援に注力するとともに、支援のための条例策定にも積極的に取り組みました。

### 04 水と空気はタダじゃない 自然を守り、活用する

私は、「水と空気はタダじゃない」というスローガンを掲げて様々な取り組みをしています。岐阜県の資産である森林や河川を守るとともに、財を生み出すように活用することが大切であると思っています。そうした想いから、最近では「木曾川」に対する施策提案をしてきた結果、県主導で「木曾川再発見プロジェクト」、国主導で「かわまちづくり協議会」が立ち上がったことをうれしく思っています。



### 05 ふるさとに誇りを！ 人口減少・若者の県外流出は深刻な問題

人口減少と若者の県外流出は、岐阜県にとっては深刻な課題であり、移住定住推進策や交流関係人口の拡大への取り組みは重要です。子供の頃から地元の魅力に接して、岐阜県から離れてもふるさとに愛着を持ってもらうために、学校や地域での「ふるさと教育」の果たす役割は大きいと思います。「岐阜県といえば・・・、各務原市といえば・・・」ということがすぐに思い浮かぶような「魅力づくり」や「地域資源のブラッシュアップ」にも積極的に関わっていきます。

# 初めての 代表質問

令和3年第2回定例会（3月10日）一般質問において、15項目24点16500文字超、所要時間は質問のみで58分、答弁も含めると2時間を超える大役、県政自民クラブの代表質問を行いました。コロナ関連項目や発生から10年となる東日本大震災の関連項目も避けることができないので、質問が長時間になりましたが、知事と執行部からは、新たな取り組みも含めて丁寧な答弁をいただきました。14年目にして初めての代表質問であり、議員になる前からの想いも含めて、「水と空気はタダじゃない」や地域ぐるみの子育て支援、共助の大切さ、森林の公益的機能の重要性、国内の豊かな地下資源を活用した地熱発電導入などの私自身の政治理念を質問に盛り込みました。質問の終了後、先輩議員や同僚議員からお褒めの言葉、メールやメッセージで激励や慰労の言葉をたくさんいただきました。

## 質問項目



### 01 次の4年間の県政運営について 【知事】



＼会議録詳細はこちら／



### 02 新年度予算について

- (1) 新年度当初予算編成の狙いとその実現に向けた取組みについて 【知事】
- (2) 新年度予算案における一般財源総額の見通しと新型コロナウイルスの影響を踏まえた中期的な財政見通しについて 【総務部長】



### 03 コロナ感染対策と経済対策について

- (1) 第3波における県の対策の評価と感染拡大防止に向けた今後の取組みについて 【知事】
- (2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた関連法の改正について 【知事】
- (3) 新型コロナウイルスワクチンの接種に向けた準備について
  - ① ワクチン接種を円滑に行うための体制整備について 【健康福祉部次長】
  - ② ワクチン接種に関する県民への周知について 【健康福祉部次長】
- (4) 経済雇用対策について 【知事】



### 04 アフターコロナを見据えた施策について

- (1) 県の産業構造のグリーン化に向けた企業支援や再生可能エネルギーの導入拡大について 【知事】
- (2) 木曽川中流域の観光振興に向けた取組みについて 【観光国際局長】
- (3) デジタル化の推進について
  - ① デジタル戦略を推進するための体制づくりについて 【総務部長】
  - ② サイバー攻撃への備えについて 【総務部次長】
  - ③ 警察におけるサイバー攻撃への取組みについて 【警察本部長】
- (4) 少子化対策の一層の推進について
  - ① 市町村の取組みの促進並びに全県展開について 【子ども・女性局長】
  - ② 地域で子どもを育てるための「共助」を促す取組みについて 【子ども・女性局長】





# 木曽川中流域活性化に向けた取り組みが進んでいます !!



—昨年12月の県議会定例会一般質問において、「木曽川中流域の活性化に向けた取り組み」について提案をしました。それを契機として、岐阜県では「木曽川再発見プロジェクトが立ち上がり、民間組織で私も会員として活動している「木曽川麒麟の会」と連携しながら様々な取り組みが進んできました。昨年11月には、岐阜県・愛知県の関係市町及び木曽川を管理する国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所が連携して「木曽川中流域かわまちづくり協議会」が設立

されました。既存の資源を最大限に活用した流域の魅力の向上、木曽川を基軸としたヒト・マチ・オモイのネットワーク化を図り、安全・安心で賑わいのある豊かな川のある暮らしを実現することを目的としています。そして今年7月、コロナ後の観光需要回復を見据えて、官民が一体となって周遊ルートづくりや観光資源の発掘に着手して誘客を図るために「木曽川中流域観光振興協議会」が発足しました。構成する自治体は美濃加茂市、各務原市、可児市、坂祝町と愛知県犬山市。各首長と地元の観光協会長、岐阜県の担当者、有識者らをメンバーとし、古田肇知事が顧問に就きました。

各務原市にとって、木曽川中流域の活性化は「地域の魅力づくり」に大きく寄与すると考えます。サイクリングロードなどの河川整備事業や遊覧船事業などの観光振興事業を国や県に今後も働きかけます。

かわまちづくり協議会 観光振興協議会



## ブログ抜粋

2010年10月より  
11年間毎日更新



**5月1日 PCR検査装置「cobas8800」**  
岐阜県では、コロナウイルス感染症の感染拡大に備え、検査体制の充実を図るために、1日あたり1000件程度検査が可能な全自動リアルタイムPCR検査装置「cobas8800」の稼働を連休明けに全国で初めて開始する予定です。昨年度の県議会厚生環境委員会において、PCR検査の件数を増やすことや保健所の人材不足についてたびたび意見してきたので、この検査機導入を待ち侘びていました。岐阜県は、「感染者の自宅待機者0」を掲げて、感染者の濃厚接触者の徹底したPCR検査の実施で、クラスターを封じ込めてきており、これでさらなる徹底の体制が整いました。次はワクチン接種体制の確立、「オール岐阜」体制で、県と市町村が連携協力しながら、速やかに滞りなく進められる体制づくりを整えてほしいと昨日担当者に依頼しました。

**6月1日 ぎふチャン番組収録**  
早朝からモーニングセミナーを受講し、その後、岐阜県浄化センターを指定管理している会社の代表者と面談して、木曽川河川敷の有効活用について情報交換をしました。午後からは、ぎふチャンの「岐阜県議会 新正副議長に聞く」という対談番組の収録を岐阜シティタワー43のテレビスタジオで行いました。アナウンサーの質問に対して、議長と副議長からそれぞれの抱負や県政に対する考えや課題、取り組みについて述べさせていただきました。こうした対談形式でのテレビの出演は初めてであり、尺などの打ち合わせやメイク室でのメイク、照明やカメラ撮影など番組はこうして作られるんだなあということを知ることができる良い経験でした。



6月18日  
知事との鼎談



まつおかまさと  
**松岡正人事務所**



【事務所】〒504-0908  
岐阜県各務原市那加織田町 2-5-1  
【TEL】058-389-6665  
【FAX】058-389-6676  
【E-mail】shiwase@yaranaakan.jp



**7月18日**  
バドミントン女子ダブルス  
福島由紀選手・広田彩花選手  
東京に出発する前に岐阜県バドミントン協会からの激励金と岐阜県からの激励品を渡すためにアリーナを訪れました。

ホームページ  
リニューアル

# 大切なライフライン 川島大橋通行止め

## 5月28日に報告を受けてからの私の対応

### 対応01 5月29日

川島町の住民の数人の方から、「通行止めによる渋滞がひどい、何とかして欲しい」という要望をいただいたので、休日でしたが県警本部の交通管制担当者と連絡を取って打ち合わせ、安全最優先の迂回路の確保と信号コントロールによって少しでも渋滞が緩和できるように、土木事務所及び県警本部に対応を働きかけました。

### 対応02 5月31日

笠田地区の小学生のスクールバスの運行が始まったことから、その対応について県教育委員会に確認しました。併せて補助金について調べてもらうことを依頼し、その結果を各務原市に情報提供しました。

### 対応03 6月21日

岐阜県土木事務所で、所長と道路管理監に「現状報告と今後の対応について」面談しました。国においてもレアなケースであり、調査とその対応については相当な時間がかかりそうだとの報告がありました。

### 対応04 6月29日

県警本部と岐阜県土木事務所担当者との面談、川島町笠田地区の子供会の皆さんからの「川島大橋通行止めの影響による要望」を伝達。

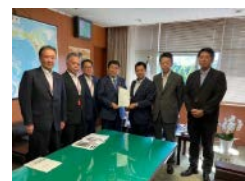
- ①道路事情の変化に伴う歩行者安全確保のため横断歩道の設置
- ②信号機停止にともなう通行自動車の速度の制御
- ③横断歩道の歩行者の安全確保のための通学時の警備員増強
- ④自転車通学者の利便性と安全性向上のため木曾川左岸堤防の舗装整備
- ⑤その他通学路に関する要望

### 対応05 7月20日

通行止めになっている「川島大橋」の現況を知っていただくために、県議会土木委員会に視察していただきました。地元選出議員として土木委員会の県議の皆さんに住民の窮状をお伝えしました。視察状況が報じられる「ぎふチャン」のインタビューも受けて、早期復旧のために国への支援要請や住民からお聞きした要望などをお話しました。

### 対応06 7月21日

川島大橋の早期復旧に関する要望のために、岐阜県知事と各務原市長、地元選出県議3人も同行して国土交通省に行きました。岐阜県選出で先日副大臣に就任された渡辺猛之参議院議員、そして国土交通省技監に面談して、国の権限代行制度による復旧と速やかな災害査定の実施を要望しました。



## ● 第1回検討会以降の経緯について

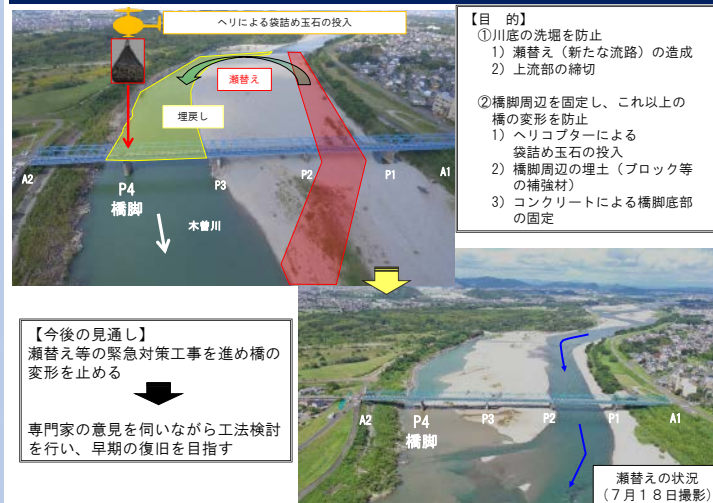
### 【緊急対策の実施状況】

- ・6月9日 瀬替工事着手
- ・6月15・18日 ヘリコプターによる袋詰め玉石投入
- ・6月17~22日 上部工の補強工事
- ・6月26日 瀬替工事完了
- ・6月27日 埋土工事着手
- ・7月3日 降雨による出水により締切部と埋土の一部が流出
- ・7月17日 瀬替および埋土工事着手

### 【橋梁の変状】



### 瀬替え等による緊急対策工事について



## ● 今後の緊急対策について

【橋脚】埋戻完了後、ケーソン基礎底面の空洞にコンクリートを充填し固定

【上部工】橋脚の固定後、上部工の補強工事を実施

## ● 復旧方法について

・復旧に要する期間や経済性等を総合的に評価して復旧方法を定めること

## ● 今後のスケジュールについて

- ・緊急対策工事の早期完了  
(緊急対策工事完了後も川島大橋の通行規制を継続)
- ・橋脚の監視を継続



川島大橋通行止めは長期化する見込みなので、国や県に対して要望すると共に、調査や対策、工事の計画やスケジュールなどの住民に対する情報発信に今後も務めてまいります。